

○ 6月10日(木) 晴
神室山・キヌガサソウ

今日は念願のキヌガサソウに会いに行く！

4時起床。天気良好、まるで夏のように暖かい。昨日は長距離ドライブに続き早池峰山登山というハードスケジュールをこなした疲れか、夕食のビールが効いて早々と寝てしまい、熟睡したので今朝の寝起きの気分は快調だ。広い駐車場には、寝ているうちに着いたのか、数台の車が車中泊している。でもみんな地元のナンバーだ。



これから秋田県と山形県の県境にある神室山へキヌガサソウに会いに行く。早々に朝食を済ませ5時過ぎに出発した。東和ICから高速に乗り秋田自動車道を通り湯沢横手道路を雄勝まで一気に走る。ただ全線ほとんどが片側一車線の対向車線で 追い越し区間が来ないと追い越せないため、トラックの後についてのおんびりと走った。天気は良いし車は少なく景色も良い。高速の有料は湯沢までで、その先は無料になり「雄勝こまち」まで高速が続く。その先は国道13号に繋がり、すぐ左に分かれて国道108号線に入る。しばらく走ってから神室山登山口へ行く道に入るのだが、どこにも「神室山」の道標がないので道がよくわからない。ナビ頼りに林道へ入ったが、どうも様子がおかしい。しばらく走ると道の真ん中で止まっている車がある。じゃまだなと思っていると、車からおじさんが下りて来て「神室山へ行きたいのだが、どうも道が違うようだ」と、Uターンして引き返していった。地図をよく見るとどうも薄久内川沿いに「大平」の方へ入っているらしい。私も引き返し国道108号の入口まで戻った。さっきの車はどこへ行ったのか見当たらない。どこを見ても神室山の道標がないので、あちこち道探し。やっと左側に大役内川の方へ降りる細い道を見つけ入ってみた。人がいたので「この道は神室山へ行けますか?」「ああ神室山へ行くよ」やれやれやっと道が見つかった。ただこれで終わらなかった。林道はやがて砂利道になり、しばらく走ると鳥居が立っていて神室山登山口と書かれた道標が立つ3差路に出た。ここが神室山のパノラマコースと西ノ又コースの3差路と思い、左の西ノ又コース方面へと入っていったが、道はどんどん細く悪路になり、いつまでも平坦で上り道にならない。これはおかしい。何とかスペースを見つけてUターンし鳥居の立つ3差路まで戻った。落ち着いて地図をよく見ると、登山道はここを右に入りその奥にパノラマコースと西ノ又コースの分岐があるらしい。2kmくらい走ると予想通り広場に出て車が数台止まっている。ここがパノラマコースと西ノ又コースの分岐だった。パノラマコースはここから登るが、西ノ又コースはさらにここから1km以上車で入れるとネットで読んだので、狭い道を進むと道のどん詰まりに車数台が止まれる空き地があった。

「西ノ又コース入口・神室山山頂6km」と道標が立っている。やっと神室山の登山口に着いたぞ！

7時前に到着して7時過ぎには登り始めようと計画してきたが、登山口への道が分からず道探しで1時間以上もうろうろし、8時を過ぎてしまった。大変なタイムロスだが、幸い今日は天気が良いので少々遅くなくても心配ないだろう。



駐車スペースに車は一台も止まっていなかったの
でターンのスペースを考慮して隅の方に駐車した。
要するに今日はまだ誰もこのコースに入っていないと
いうことだな。後から誰か来るかな。私一人かな。



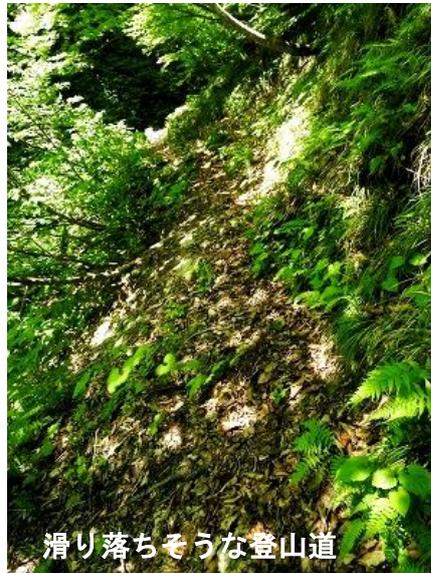
今にも落ちそうな吊り橋

神室山にキヌガサソウを求めて出発したのは8時半前だった。
山頂まで6kmか、3時間くらいで行けるかな。

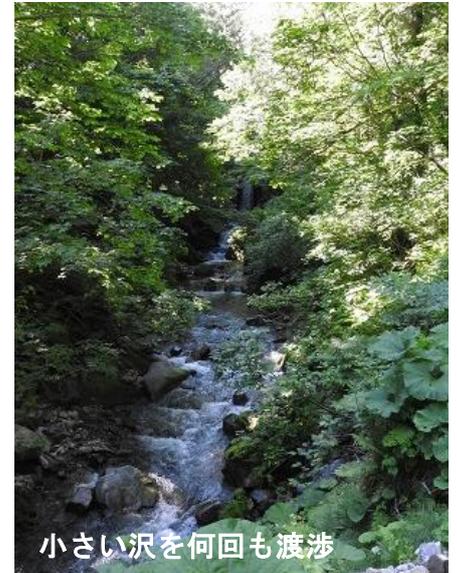
ところがここからの道が予想もしなかった難コースだった。

西ノ又川沿いに登る登山道は、まず川の右岸を歩いてから
つり橋を渡って左岸へ行き、しばらく歩いてから再度今にも
落ちそうなつり橋を渡って右岸へ戻る。ここからはずっと
右岸を歩く。

川岸の急斜面を切って作られ
た、いつ踏み外して川に転落す
るかわからないような細くて崩
れやすい道のトラバースが続き、
右岸の斜面を流れ落ちる小さな
沢を何度も渡渉する。おまけに
あまり歩いていないのか、道が
草で隠れていてよく見えないし、
木がほとんど生えていないので
捕まるところもない、一時とし



滑り落ちそうな登山道



小さい沢を何回も渡渉

て気を許すことができない
緊張の連続だ。道標や目印
のテープはほとんどないので
渡渉時にどこへ行ったら
いいのか道が分からなくなり、
道を間違えては戻って
道を探すことを繰り返す。
時間がかかってもうへとへ



やっと河原に出た



三十三尋の滝

とだ。夏の太陽が容赦なく照り付け風もないので汗が止まらない。

尾根道なら1時間もかからない距離なのに、トラバースの登山道と沢の渡渉とが終るまで
2時間近くもかかり、やっと三十三尋の滝がある広い河原に出た。

疲れと暑さで熱中症気味になり、河原の木陰で20分くらい横になって休んだ。

川の流れと三十三尋の滝の音だけで誰もいない河原はとて心地良い。ここが最後の渡渉場で岩にペンキで目印が書いてあるが、流れが急でどこを渡ればいいのかわからない。上へ行ったり下へ行ったりして渡渉できそうな場所を10分くらい探しやっと渡渉した。それでも何歩か水の中に足を落として靴の中が濡れた。



ここは標高 760m、ここから尾根に向かって標高差 300m以上登る急坂（通称・胸突き八丁）が始まる。ところが少し登ったら道が途中で消えた。河原まで下って道を探し再度登坂開始、何とか不動明王にたどり着いた。すでに11時近くになっている。

もう暑さと疲れで限界かと思ったが、「何がなんでもキヌガサソウの群生地までは行くぞ」と暗示をかけて気力を振り絞った。

本当に限界か、足が動かない。尾根少し手前でダウンし休憩。おにぎり野菜ジュースで昼食をとり、なんとか元気を取り戻す。でももう12時を過ぎた。あの西の又川沿いの道をまた帰るのかと思うと、そうゆっくりはしてられない。先を急ごう。気を取り直して急坂を上り尾根に登りついた。パッと視界が開け青空を背に神室山の山並みが見えた。

標高 1365mの神室山山頂はまだかなり高いところにある。



尾根道はイワカガミやヒナザクラ、ミツバオウレン、イワイチョウなどが咲き天気も良いし楽しく、疲れを忘れさせてくれる。

ただ木陰がないので真夏の太陽が容赦なく照りつけ熱中症寸前の状態だ。



しばらく歩くと大きな雪渓に突き当たった。

さて雪渓の上には足跡が全くないのでどこへ行ったらいいかわからない。雪渓の上を行ったり来たり。とにかく上の方へ歩いてゆくしかない。と対岸に登山道が見えた。やれやれ。雪渓を横断して登山道にたどり着きしばらく登るとまた小さな雪渓に突き当たった。今度は対岸に登山道が見える。一体どこまで行けばキヌガサソウがあるのだろうか？



暑さと疲れでボーとしながら雪渓を渡って登山道を登り始めたら足元に何やら白いものが見える。よく見るとキヌガサソウらしい！
なに、キヌガサソウが咲いているぞ！

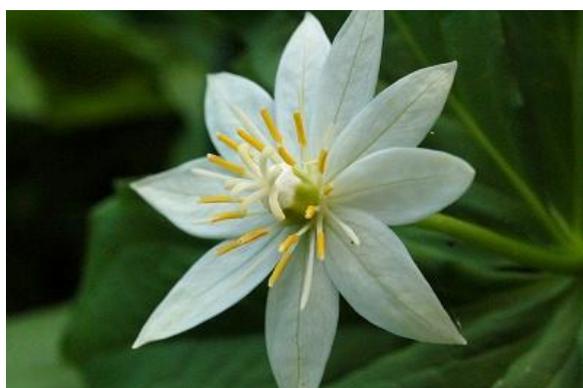


あらためて周りを見ると、なんと白く 気品にあふれたキヌガサソウの大きな花が一面に咲いている。

ここがキヌガサソウの群生地か！

とうとう着いたぞ！ 一気に疲れが吹き飛んだ。

登山道の両脇に花をいっぱい開いたキヌガサソウの群落がずっと続いている。まさに壮観だ！今まさに花を開いたばかりの真っ盛りだ。荷物を放り出して夢中で写真を撮りまくった。人っ子一人いないので、思う存分写真撮影に専念できた。30分以上いたただろうか、気がつけばもう13時半に近い。帰り道はここから3時間はかかるだろうから、今ここで引き返して帰っても16時を過ぎてしまう。神室山山頂へ行く時間などとてもないし、体力もない。キヌガサソウの群落に会えて思う存分写真が撮れたことだけで十分だ。ここですぐ下山することにした。



帰り道は来るとき通った道のため、迷うこともなく、心配したほど危険なこともなく、下りなので体力的にも楽で、意外にすんなりと下山できた。何よりも念願のキヌガサソウに出会えて写真が撮れたことの喜びが大きかった。ただ西の又川の渡渉では、渡渉場所を選ぶ元気もないのでザブザブと水の中を歩いて渡り靴の中が水浸しになったし、その先の小さい沢の渡渉では足を滑らせて見事に沢の中へあお向けにひっくり返り全身びしょ濡れになったりして大変だった。なんとか川沿いの危険なトラバースも無事渡り切り、駐車スペースにたどり着いたときは予想通り 16 時を過ぎていた。駐車スペースには私の車だけが寂しくポツンと止まっていた。結局今日このコースを歩いたのは私一人だったわけだ。猛暑の中、8 時間という長時間の歩行だったが、一日中晴天に恵まれたので精神的に余裕がもてて、無事行ってこられたものと思う。周りはまだ十分明るいし誰もいないので、水浸しになった衣類を全部着替えてさっぱりした。

とにかくゆっくり温泉に入り汗を流して疲れを癒したい。車に飛び乗り秋ノ宮温泉へ急いだ。「スパ&リゾートホテル秋ノ宮山荘」は素晴らしい温泉だった。大きな浴槽にやや小さいが露天風呂もある。入浴客は私一人、あとから泊り客が数人入ってきたが、温泉を独り占めで十分疲れを癒すことができた。

今日の泊りは道の駅・雄勝。隣にあるローソンで食料を買い込み、駐車場の一角で今日の成果と無事帰還に祝杯を挙げた。広い駐車場には車はパラパラしかいないので、何を気兼ねすることなく、旨い夕食を楽しんだ。 **神室山万歳！** 大満足で車中泊、すぐ熟睡に入った。

